

おれんじ通信

18

知って支える認知症

早期の支援を実現する 東大阪市オレンジチーム

人口の高齢化が進む中、国の推計では65歳以上の4人に1人が認知症、またはその予備群と言われています。

これまでの認知症ケアは、症状が重症化してからの対応が中心となってきましたが、これからは認知症になっても地域で安心して暮らせるよう、市では認知症の早期から支援につなげる仕組みを整え、ケアの流れを変える取組みを進めています。その取組みのひとつが、昨年7月から始まった認知症初期集中支援推進事業「東大阪市オレンジチーム」です。

市オレンジチームは市内の医師会の協力により、認知症診療の支援などを行う認知症サポート医をはじめ、医療介護の専門職らで構

成されています。チームの支援対象となった場合、チーム員が本人宅を訪問し、話を伺います。必要時はサポート医も訪問を行います。そして病院受診や介護サービスの利用など必要な支援へとつなぎ、本人や家族の負担を軽くするお手伝いをします。事業開始以降60件以上の相談を受け、対応しています。利用者からは、「相談できる人が増えて安心した」などの声をいただいています。

市オレンジチームの利用については、お近くの地域包括支援センターへご相談ください。

◇ ◇

今回は「認知症高齢者等支援対象者情報提供制度について」です。なお、おれんじ通信への意見をお寄せください。

地域包括ケア推進課 06(4309)3013、FAX06(4309)3848